



天皇陛下 即位を宣言

皇居で正殿の儀

「国民に寄り添う」

天皇陛下が内外に即位を宣言する「即位礼正殿の儀」が22日午後、国事行為として皇居・宮殿で執り行われ

た。陛下は玉座「高御座」に立ち、「国民の幸せと世界の平和を常に願い、国民に寄り添いながら、憲法に

のっとり、日本国および日本国民統合の象徴としてのつとめを果たすことを誓います」と述べられた。

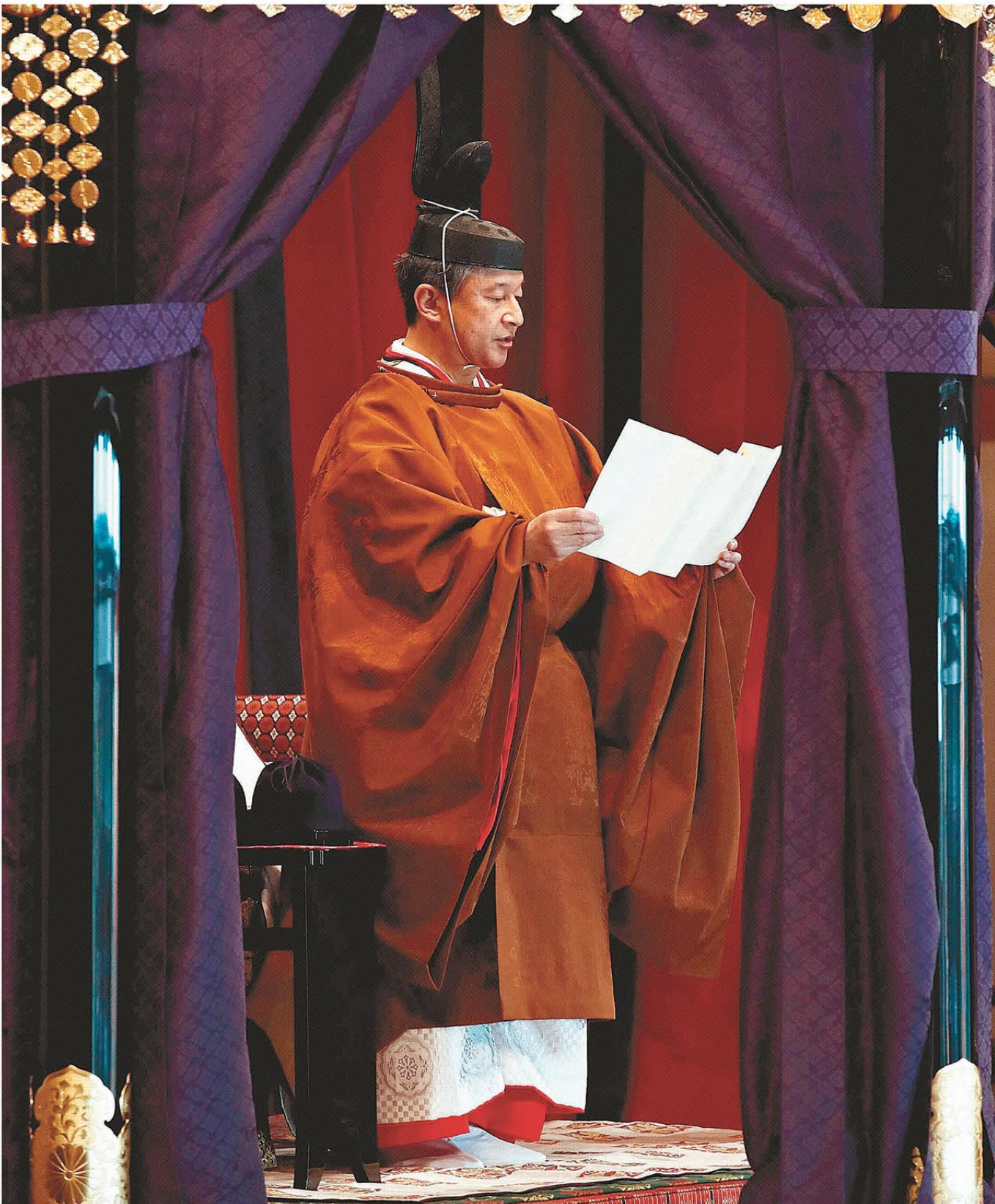
台風19号の被害拡大を受け、パレード「祝賀御列の儀」は11月10日に延期された。

正殿の儀は、「松の間」

で行われ、古式装束「黄櫨染袍」を着た陛下が、天孫降臨神話に由来する高御座に上り、即位を宣言。皇位のしるしとされる「三種の神器」のうち剣と璽(勾玉)が、国の印の「国璽」と天皇の印の「御璽」とともに高御座に置かれた。皇后さまは十二単姿で隣の「御帳台」に立った。

安倍晋三首相が祝辞の「寿詞」を述べ、参列者と万歳三唱。政府は194カ国や各界の代表などを招待し、外国の元首や王族、政府高官のほか、皇族や三権の長、知事らが参列した。

正殿前の中庭には、弓や太刀などを携えた装束姿の宮内庁職員らが並ぶ予定だったが、降雨のため、人数を減らして中庭を囲む廊下に配置され、中庭には旗(のぼり旗)や柵だけを設置した。



「即位礼正殿の儀」で、即位を宣言される天皇陛下。22日午後1時18分、宮殿・松の間